

『はるかのひまわり』とは・・・

阪神・淡路大震災後のその夏に、被災者「加藤はるか」ちゃんの自宅跡地に咲いた向日葵を『はるかのひまわり』と名付け、全国に配布する活動が始まりました。小学校の道徳読本やNHKで取りあげられ、全国各地にその輪が広がりました。平成三十一年の歌会始めでは、天皇陛下が、震災御遺族の少女から贈られた「はるかのひまわりの種」を詠まれました。贈られしひまわりの種は生え揃ひ葉を広げゆく初夏の光に

平成7年1月17日大きな地震が神戸を襲いました。木造の建物は、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされていました。はるかちゃんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。震災から半年後、はるかちゃんの家があった空き地。はるかちゃんの遺体を発見した場所には驚いたことに、無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向かって咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこう呼びました。

『はるかのひまわり』

はるかちゃんと同級生の娘さんを持つ藤野芳雄さんは、はるかちゃんを助け出せなかった悔しい思いから、はるかのひまわり、を全国へ普及させる活動を愚直に続けてこられた、はるかのひまわり、の生みの親です。“はるかのひまわり絆プロジェクト”も藤野芳雄さんの真摯な思いから生まれた活動です。藤野芳雄さんは2012年11月に逝去されましたが、ご冥福を祈りつつ、向日葵の種の配布活動を継続しています。



<https://haruka-project.jimdo.com/>

はるかのひまわり絆プロジェクト



岩野田北の誰でも参加できる!!

はるかのひまわり

苗を無料配布中!! を育てましょう

【はるかのひまわりの目的は・・・】

『はるかのひまわり』を育て、採取した種を分かち合う運動を通じ、「命」、「人の絆」、「心の豊かさ」を大切にする地域社会を育みます。

【岩野田北のまちづくりに役立てます】

岩野田北地域ビジョンに掲げる「安全・安心・絆のまち」を目指し、この運動を、地域の防災、交流、環境美化に活用します。

【希望者に苗をお渡しします】

岩野田北まちづくり協議会が、プロジェクトの主催団体「はるかのひまわり絆プロジェクト」(神戸市)から、令和5年度に入手した『はるかのひまわり』の種が5月に発芽しました。希望される方に苗をお分けしています(5月中。無くなり次第終了)。種が実ったら採取し、来年度ご自身が蒔く種を手元に残し、余った種をまちづくり協議会のポスト(岩野田北公民館内)に投函してください。また、子どもさんの写生作品や作文など、連絡先を添えてお寄せいただけましたら、協議会のホームページに掲載させていただきます。

皆さんから寄せられた種は、来年も希望者に配布するほか、「はるかのひまわり絆プロジェクト」へ送付、全国の活動にシェアされます。

この夏、地域を見守ります。



まちづくり協議会で、読み聞かせなどに PHP にここにこえほんを貸し出しています。

①種を蒔く



①2~3粒ずつ 30~40cm 間隔で直まき又は 9cm ポットにまきます。本葉がで始めたら、元気のいい苗1本を残して間引きます。

②定植



②ポット苗は、本葉が 5~6 枚になるまでに植え替えます(土を崩さないよう気を付けて)。違うひまわりの種類と混植しないでね。

③管理



③40cm ほどの深さまで耕した日当たりの良い場所で、葉がしおれるようであればたっぷり水やりします。

④開花・種採取



④倒れやすい場合は支柱をします。開花後、1.5~2か月後に種が黒くなったら花冠ごと数日間干し、軍手でポロポロと取り外したら再度、数日間乾燥。大きくふくらんでいる硬い種をジッパー付きの袋や瓶などで冷暗所で保存します。

「はるかのひまわり絆プロジェクト」からの伝言

●種の出生証明書

枚方市のボランティア団体「花いっぱい翠会」の皆さんが、公園で育てた種です。▼左から「出生証明書」「育て親の皆さん」「送られてきた種」



●種も送料も無償

プロジェクトを支援する切手や書き損じはがきを受け付けています。
〒651-1121 神戸市北区星和台-3-14 松島俊哉さん宛て
※まちづくり協議会にお寄せいただければ、とりまとめて送付します。

⑤種をシェア

⑤採取して余った「はるかのひまわり」の種を、岩野田北公民館のポストに投函。希望者や施設に配布するほか全国の希望者に送付されます。



岩野田北まちづくり協議会



「この指とまれ」で広がる輪

あいさつ運動を推進中!!

「岩野田北まちづくり協議会」は、平成 16 年に市内 3 番目のまちづくり協議会として誕生しました。協議会を構成団体する自治会連合会、各種団体、小中学校、公民館など 24 団体が、相互に協議・連携し、令和 3 年に策定した岩野田北まちづくりビジョンのもと、「住民参画による自治と協働のまち」を目指しています。